

第47回

八幡町文化財展

2階 館藏品展



八幡神社例祭の流鎬馬ひばき

開催期間 1987年10月7日(水)～11月29日(日)

開館時間 9時30分～16時30分

休館日 月曜日・祝日

入館料 大人100円・児童生徒50円

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL (0234) 24-6544

開催にあたって

酒田市に接する近隣各町の風土や民俗をお互いに紹介しあい、その特色を理解し、交流を深め、共に進展しようという意図で企画してから、今年で4年目を迎えました。

今回は歴史的にも古い八幡町の民俗芸能や、考古出土品ならびに各種文化財を展示し、お互いに認識を高め、八幡町の特色を理解していただきたいものです。

展示にあたって、貴重な文化財をこころよく提供されました八幡町教育委員会、同中央公民館ならびに各所蔵者の方々に厚く御礼申し上げます。

解 説

青沢獅子踊り

青沢の薬師神社に奉納する神事で狩猟時代に鹿や猪の獲物の豊猟祈願する「まつり」から豊作農神事へと変り、後には神事芸能へと発展した。別名「獅子はね」とも言われる程躍動的で、鹿頭はきらびやかで芸術工芸品である。

盆会を中心に、8月7日に幕揃、14日は各戸巡回、17日は梅林寺、27日の神送りで舞は終る。

福山神楽

福山、三神社の神事として8月14日から16日にかけて演じられる。伊勢の太神楽たいの派生で室町時代に伝承されたと伝えられる。獅子舞・道化まわ・文織等大道芸能化し、神事芸能とミックスされた形態である。

大島田天狗舞

大島田の薬師、皇大神社の神事として5月1日神楽とともに

氏子を巡回する。昭和初期東平田村の関から伝播された。天狗は道祖神の猿田彦命で、悪魔や厄払い、家内安全、五穀豊穰を祈願し、獅子舞とともに厳粛勇壮な舞である。

観音寺城主来次氏秀

天正7年～寛永17年（1579～1640）

来次氏の祖は、古代東北の豪将清原氏で、その後裔氏秀の時観音寺に移住し、その子時秀が古楯（八幡小学校地）に楯を築き、長男氏秀の代に現在地に移転したのが観音寺城である。

氏秀は最上・上杉両氏に仕え、文武両道を兼ねた武将で、文禄の役従軍記の「伊勢物語」の筆写、慶長6年会津移封時の、「夢想連歌」の詠歌、近衛三藐流じくの書家等文人としても秀才であった。元和8年（1615）廃城後は米沢に居住した。



堂の前遺跡 筏風地業

堂の前遺跡

庄内川北、特に日向川流域一帯は古代遺跡等が埋蔵し、その宝庫でもある。城輪国府遺跡を中心に堂の前、よもぎ艾田、後田、沼田、俵田、茅針谷地、樋掛、八森等本町地内に分布している。

本遺跡は、一条法連寺地内の平安期遺跡で、昭和30年発見来、県教委、本町の調査で明らかにされた。遺跡は、水田下約1米に大量の柱材、なげし長押・ます斗やひじき肘木等既存の建築材が隙間なく敷き詰められ、さらに覆土や大礫で固結された基壇建物の基礎工事で「いばだ筏風地業」といわれ、全国でも珍しい古代建築工法であり、かなりの重い圧力の加わる場合に使用され、学問的にも重要な資料

である。

昭和54年10月に国指定遺跡となった。

八森遺跡

嘉祥3年(850)出羽ノ国大地震で国府(城輪)近くまで海水が迫り、近くの高台の地に移転するように(三代実録)という国史記録から仮説される本遺跡は第9次にわたる調査により、その遺構配置、出土遺物等から城輪と類似し、国史資料からも古代に於ける官衙遺跡と推察されている。

俵田遺跡

一条岡島田地内の遺跡は、2年にわたる調査で平安時代の集落跡と立証された。

特筆すべきものは、呪術用に使われたと考えられる墨書人面土器(墨書絵壺)、人形、馬形、刀子、斎串^{ゆぐし}等が検出された。このことは国史に見える(文徳実録)嘉祥4年(851)出羽国に陰陽師派遣とあり、その裏付けとも推論され、貴重な遺跡として注目されている。

一条八幡神社

縁起によれば、陽成天皇元慶元年(877)、出羽国司、藤原興^{おき}世が蝦夷鎮征のため、山城国石清水八幡宮^{かんじょう}を勧請し創建した。元慶の乱に鎮守府将軍、小野春風が当社に戦勝祈願したという。

以後、鎌倉・室町時代の守護地頭の崇敬を集め、例祭は毎年5月1日盛大に行われる。「八幡」の町名も、この神社にちなむものである。

一条八幡宮祭礼日記

室町時代の祭礼記録である。永享本(平仮名本)と長享本(漢字混り片仮名本)と2冊がある。当時代の地方豪族が祭礼に祈願奉仕する様子^{せきとく}がうかがえる貴重な資料である。

紙本墨書謝^{せきとく}吳尺牘卷(蕪村、月溪書簡)

与謝蕪村は江戸中期、松村月溪(姓は吳、名は春ともいい、四条派の祖)。両人ともすぐれた俳人、文人画家で2人の書簡に日本画家である富岡鉄斎が題字を添書きしたものである。